

「何する気!？」



抵抗しましたが



彼に後ろから抱きしめられ
胸もを揉まれました



「やん！もうっ！」

身よじを振らせて抗あらがっても
彼の力強い両腕はさに挟まれて
逃れることができませんでした

「もう逃げられないって
わかってるだろ」

彼の左手は私の身体を押さえつけ
右手は私の太ももを
下から上へと触さわりだし
やがてスカートの中へ
侵入してきました

「あっああっ！」

太ももから鼠蹊部^{そけいぶ}までを
優しく触られました

急な刺激を受けて
快感で身体がゾクっとしました

「なっ何すんの！やめて！」

彼にビンタして走って逃げましたが



すぐに後ろから捕まりました

「ダメだって言ってるでしょ！」
それでもなお抵抗して逃げましたが

狭い室内の壁際^{かべぎわ}まで追い込まれてしまいました



彼はポケットに手を入れたまま
ゆっくり私の方へと近づいて来ました



かわぐつ な ひび たび
革靴の音が鳴り響く度

私はドキドキが止まりませんでした



性経験がない私にも
彼が私を襲うつもりなのはわかりました

私は彼のことが好きでした

でも学校の性教育で男子と
そういう関係になってはいけないと
教えられていたので
なんとか彼から逃れようと必死でした

「来ないで」

言葉で抵抗こそしているものの
身体は彼を受け入れたがっているのか
あそこがヒクヒクして濡れていました

彼の両手が私を捕まえにきたのを
なんとか振り払おうとして
両手で押し退けようとした

お互いの両手がしばらく絡み合った後
逃げ場がなくなった私を
彼は力づくで押さえ込んだのでした

顔を背けると
彼は私の顎を掴んで
自分の方へ引き寄せました



「お前は俺の戦利品だ」

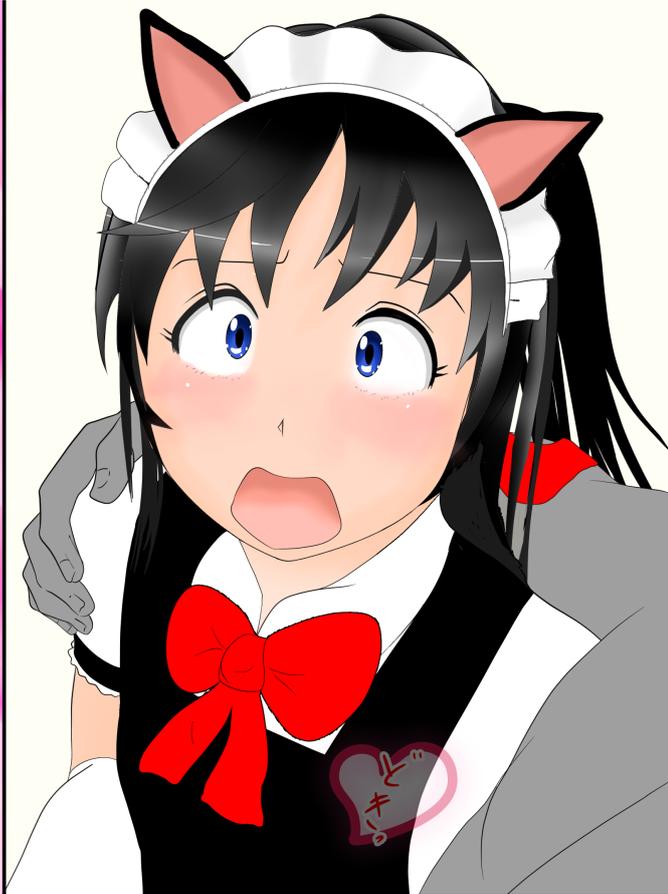
「せ・・・戦利品？」

「煮て食おうが焼いて食おうが
俺の勝手だ」

15cmの至近距離で
目を見つめながら言われました

息が荒くなる私を
彼は軽々と
抱きかかえて言いました

「ここじゃなんだな
向こうへ行こうか」



^{あせ}
私は焦りました

向こうの部屋には
私にでもそれとわかる
エッチな道具や衣装がたくさん
あったからです

「だっダメよ！離して！」



両足をばたつかせて抵抗しましたが
彼は無言のままでした

私^{ひめさま}はお姫様抱っこで
隣^{となり}の部屋へ連れ込まれ
ベッドに^{ほう}放り投げられました

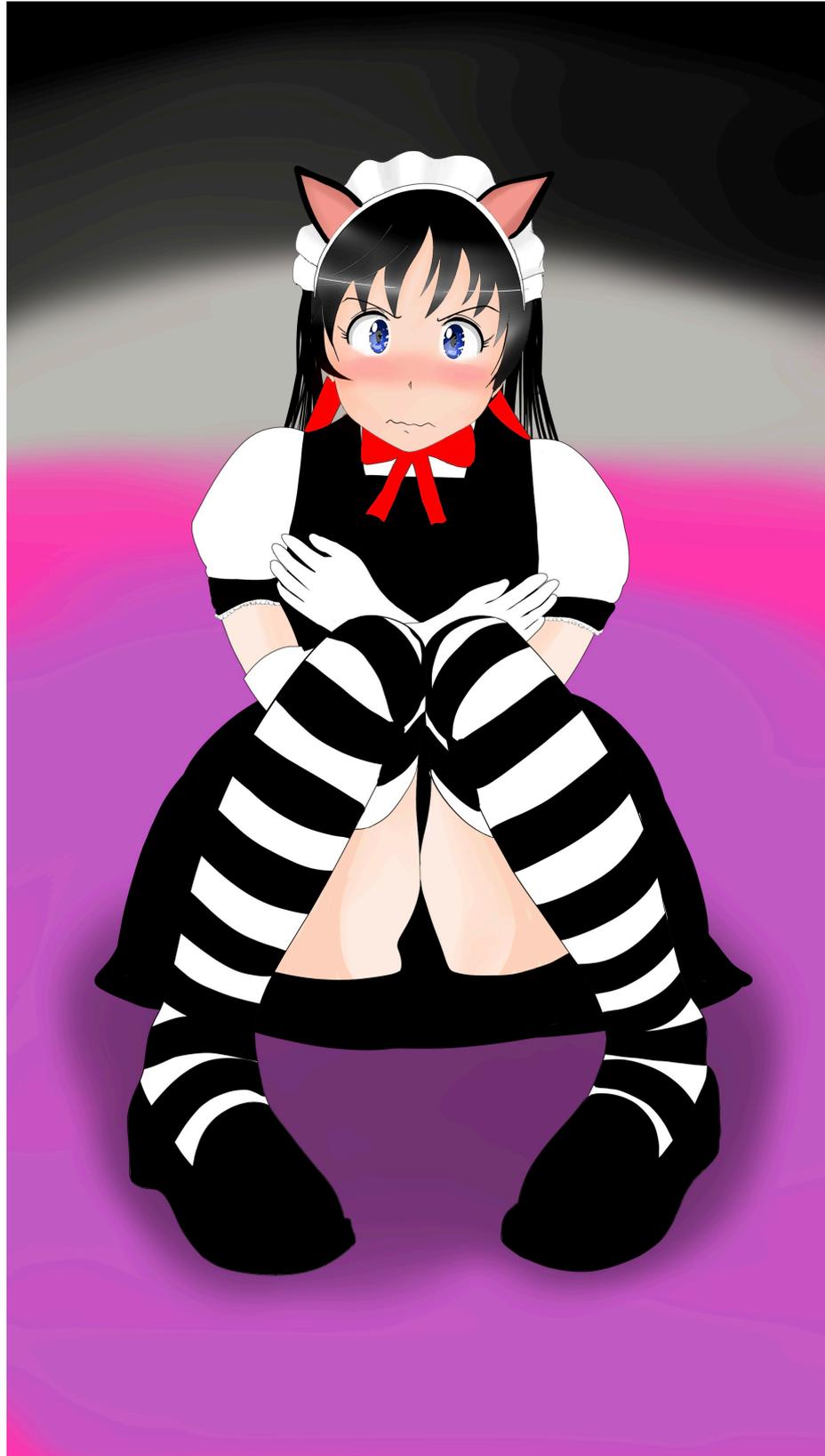
「ちょっと！」

恨^{うら}めしそうな顔の私を
彼はうつ伏せにして
手際^{てぎわ}良くロープで拘束^{こうそく}しました

力を込めたり
身体をくねらせたりして
逃れようとしたが
硬^{かた}く結ばれて身動きが
とれませんでした

でも、その抵抗^{うらはら}とは裏腹^{うらはら}に
彼から自由^{うば}を奪われ
ロープで締め付けられる
身体への心地良い痛み^しに
興奮もしていました

「無駄だよ」



「なっ何する気」



「エッチなお仕置きだ^{しお}って言った^おだろ」

ドスの効いた低い声で言うと
彼は鞭でスカートをめくり
私の女の子の部分をサワサワと^{こす}擦ってきました

(本編へ続く)